四代 吉住小三郎 作曲
三世 杵屋六四郎 作曲
花柳園喜輔 振付

二、長唄

鉢かづき姫

長澤 英彦 美術

姫　水木扇升
宰相　猿若清三郎
太郎冠者　西川扇重郎
次郎冠者　西川扇衛仁

観音様のお告げで鉢をかぶったままの姫は悲しい目にあってきた。そこに現れた王子様が宰相の君。姫を愛し、駆け落ちまでする。沢辺に着いて、姫を背負って流れを渡る。

へとても見果てぬ夢ならば結ぶも辛し根無し草　姫は宰相の愛を信じながらも自分がいては出世の妨げと身投げを決意する。へ君と別れて世をふる沢と　恋がかなわなければ宰相も自害すると伝える。ふたりは互いにもみ合っているうち鉢が割れて落ちる。中から美しい織物、さんごなどの宝が飛び出す。

へ夢ならば　醒むるなよ夢　いつまでも　姫の美しい顔が月光に照らされ二人は喜び合う。

太郎冠者、次郎冠者が二人を捜しに登場。割れた鉢を見て心中したと早合点するものの、装いをかえた二人に再会。へげにも　まばゆき月の顔　と驚き　へやんれめでたや　とふたりを祝う。中世の説話「お伽草紙」をもとに坪内逍遥が書き上げた王朝メルヘン。